

目次

- 「ロンドンオンライン会議」
Online Information 2007に参加して……………1
- 委員長会議・会員短信……………2
- ライブラリーフェア「図書館総合展」2007 ……3
- 海外ニュース・委員会報告……………4
- 雑誌の歴史 ジャーナル・ビジネスのあれこれ(2) ……5

「ロンドンオンライン会議」 Online Information 2007に参加して

12月4日(火)から6日(木)までの3日間今年もロンドンで「オンライン会議(Online Information 2007)」が開催されました。今回31年目を迎え、会場は例年どおりオリンピアのグランドホールで行われました。会議と展示で構成され、展示ではElsevier、Springer、Thomson、Wiley等の出版社をはじめとする150社以上が出展、昨年に比べてBowker、Thieme等今年出展のないところもあり20社程減、スペース的に少しゆとりができるようになりました。併設のInformation Management Solution 2007では、それ程増減なくコンテンツ管理・検索のソリューション、Web 2.0技術を取り巻く様々な企業70社近くが出展し、ECM、EDRMに関する最新技術が紹介されました。

出版社との面談では、新コンテンツ等の情報交換はもとより、やはりフランクフルトが商談の焦点となり、オンラインでは時期的にデータベース、購読系の予算

状況、次年度注文状況をもつてのフランクフルトのフォロー・取引履行の為の最終的な詳細確認等が中心となります。

eブックについては一昨年、昨年をピークに過熱気味であったアプローチが、主要出版社での供給体制がほぼ整ったところで、今年は一転してかなり落ち着いたという印象がありました。

ロンドンオンライン会議は現在も情報学専門家、図書館員、オンライン・コンテンツ並びに情報の流通、情報管理ソリューションに焦点を当てた情報産業における専門業者のための先導的な国際的会議です。今年はWeb 2.0の導入・事例研究にスポットが当てられました。各種ソーシャル・ネットワーキング・サービスその他各方面においてWeb 2.0の潮流が一般化するなか、図書館や企業にとってそのインパクト、効果、機会を理解することが重要になっています。

Wikipedia、Wikia社創設者のJimmy Walesがオー



ロンドンオンライン会議

ブニング講演を行い、10年間のwebコミュニティ発展の経過を語りました。百科事典についてのある種の変革を遂げた後、現在言語圏拡張も含めて革新的な新検索エンジンのプロジェクトを進めています。Wikipediaとそのコミュニティはそこごく始まりであり、Web 2.0がどの様に成長するか、オープンソース、透明性、参加についての重要な考え方、これらが新しい検索エンジンのプロジェクトにどの様に適用されるかの展望が語られました。

このメインテーマと並行して、eラーニングのプロ

ジェクトと新しい技術を教育にどの様に生かすことができるか、eブック争奪戦状況、主要なサーチエンジンのレビューなど、その他の重要な主題について3日間30以上、100人以上の講演者によるセッションが行われ盛況に終幕しました。今年度の会議は、情報産業にとって実体験の共有と図書館や企業からの実的な事例研究を通して包括的な最新のWeb 2.0やIntranet 2.0の刷新例を提供する国際的情報交換の場となりました。

(丸善株式会社ロンドン出張所 瀧野 智弘)

委員長会議

日時：2007年11月28日（水）

委員会報告

(1) 総務委員会

先回報告した委員会再編案は理事会で承認された。

(2) 会報・広報委員会

16日に行った編集会議で新年号の内容を検討した。

新春早々に発行したいので協力をお願いしたい。

(3) 事業委員会

三省堂で行ったセールは200万近い売り上げがあり成功を収めた。春にも行うか三省堂と出展者（社）

で早急に詰める。

(4) ホームページ委員会

各理事にお願いして「新春雑感」を掲載したい。

文化厚生委員会

来年1月10日の新年賀詞交歓会に、今年行ったようにゲストを呼ぶべきか？米国大使館に交渉する。

(グレッシャム理事長)

直近の行事は2月1日に麻雀大会、2月22日にボーリング大会を行う予定。

会 員 短 信

株式会社 ゲーテ書房

丸の内から南青山へ移転しました。

ドイツ書専門店として生まれ育って半世紀余、住み慣れた丸ビルも手狭になり、特に昨今はセキュリティの厳しさから来訪の方々に多大のご不自由をお掛け致しておりました。幸い最適な処があり2007年7月、南青山へ移転しました。

新店舗は地下鉄青山一丁目駅から徒歩約3分、大通りには面しておりませんが落ち着いた雰囲気ビルの1階で間口も広く立ち寄りやすくなりました。また近くには東京ドイツ文化センターを初め各語学学校があります。語学教材だけではなくドイツに興味がある方に手に取っていただけるような品揃えを心掛けてまいりたいと思います。

ネット販売も致しておりますが、矢張り本は手に取って中を確かめ購入すれば期待外れを防げると信じております。



ライブラリーフェア「図書館総合展」2007

本年度で9回目となるライブラリーフェア（図書館総合展）が、横浜みなとみらい地区にあるパシフィコ横浜で、11月7日から9日に亘って開催されました。

本年の入場者数は、2万3千名を超え、また、展示場への出展者数は、99社にのぼりました。出展者の中で洋書販売業者としては、ユサコ、丸善、紀伊國屋書店、雄松堂書店、サンメディア、海外出版社として、エルゼビア、ワイリー、ウォルターズ・クルーワー・ヘルス、トムソンサイエンティフィック、シュプリングー、プロクレスト、ケンブリッジ・ユニバーシティ・プレス、オックスフォード・ユニバーシティ・プレスなどのSTM系の出版社が中心で、取次系としてエブスコ、スウェッツなどは、毎年の常連として出展していました。展示場では、出展者同士の商談や情報の交換、また、大学図書館、企業図書館のメンバーと顔を合わせることのできる場である事も事実です。

近來の傾向として、フォーラムでの各種プレゼンテーションの申し込みが急増し、申し込みが断られる有様でした。プレゼンテーションの内容としては、インターネット時代、そしてWeb 2.0の時代にあって、図書館がどの様に変貌していくのかに来場者の関心が集まっていたようです。

特に国立大学図書館協議会のリーダーである、千葉大学土屋教授の講演「日本の学術情報の電子化―絶望の現在と不安な将来」には、各分野からのメンバー180名以上が参加していた事が印象に残りました。JAIPのメンバーの顧客層は、個人、法人とに分かれています、図書館が最大の顧客である事は、言うまでもありません。

この意味において、洋書輸入業者と図書館は、同じ船に乗っていると言って過言ではないと思います。我々の商売が今後も成り立つのか、それには何をしなければならないのかを知るための日本国内で開催される重要な会議である事は、疑う余地はありません。

一方、会場全体を見廻して感じたことは、図書館設備関連で最近頻発している地震・震災に対する耐震設備関係の出店が例年になく多かったということです。

2008年度のライブラリーフェアは、同じ会場で同時期に開催される予定ですので、事前情報は、JAIPの会報やウェブサイトを通じて配信していきたいと思っています。

（ユサコ株式会社 水野睦生）



ライブラリーフェア「図書館総合展」2007

海外ニュース

◆アマゾンが提供する新しい 電子ブック・リーダー

Amazonは新しいワイヤレスの電子ブック・リーダー（名称 Kindle）を発表した。利用者は、この端末からAmazonの保有する書籍、雑誌、ブログのコンテンツを直接ダウンロードできる。

Jeff Bezos CEOによると、Amazonの技術者やデザイナーは、印刷された書籍のできることは全てできる

端末を開発することを目標にしたという。

ユーザーはAmazonのWhispernet、EVDO networkからコンテンツを購入（ダウンロード費用を支払うか、継続購読の契約をするか）する。ベストセラー書籍のダウンロードは、one-time fee \$9.99で購入できる。雑誌や新聞の購読も月ベースで可能（費用は商品によって異なる）。

6インチのスクリーンを備えたリーダーには、オーディオブックに対応するためのイヤホン・ジャックがついており、加えてe-mail addressも付いている。スクリーンにはバックライト機能がついていないので、小さな読書灯も付けられる。価格は\$399。内臓のコネクションを使ってAmazonのe-book storeに直接アクセスしてコンテンツを購入できる。

（丸善：仕入物流本部 海外仕入部）

委員会報告 <文化厚生委員会>

第127回 72会ゴルフコンペ

2007年12月8日(土) 快晴 会場：高根カントリー倶楽部（埼玉県）

参加者：19名(12社) 競技：18ホールストロークプレー（新ベリア方式による）

〔成績表〕

	氏 名	(所属)	グロス	ハンデ	ネット
優勝	宮川 修	(日本出版貿易)	97	26.4	70.6
2	根来 恒男	(ケイラインロジスティクス)	91	19.2	71.8
3	鶴 三郎	(東亜ブック)	102	30	72
4	山本 明彦	(日新)	97	24	73
5	西山 幸児	(西山洋書)	90	16.8	73.2
ベストグロス	金山 優	(医学書院)	85 (OUT 42 IN 43)		

ドラコン 岡村利隆（ワタナベ流通）・楠本 忍
（東京ブックランド）・真庭雅一（エルゼビアジャパン）
根来恒男（ケイラインロジスティクス）
ニヤピン 鈴木 徹（ケイラインロジスティクス）・小林謙作
（医学書院）・楠本 忍（東京ブックランド）
西山久吉（西山洋書）

次回は2008年3月 竜ヶ崎CCで開催予定です。



洋書の歴史 ジャーナル・ビジネスのあれこれ (2)

尾内 昌弘

為替と販売価格

昭和24年(1949)4月25日から、1ドル=360円の単一為替レートが総司令部(GHQ)の指導のもとで公定された。これは昭和46年(1971)8月27日に1ドル=308円の固定相場に変更されるまで継続された。

1ドル360円の単一為替レート(公定レート)の間は、外国雑誌販売のカタログ価格は1ドル450円が一般的であった。このカタログ価格の設定も「GHQの指導であった」ということを先輩から聞いたことがあるが、そのような事実を示す記録は見つからなかった。

多分450円の8掛けが360円のため、和書並みの利益を確保したいとする業者が決めた換算レートを他社も採用した、いわゆるプライスリーダー制であったと思われる。1ドル450円が協定価格でなかったことは、ある業者が昭和31年(1956)秋に配布した、1957年用の外国雑誌カタログに1ドルは430円で換算する旨の記録が残っていたことでも判る。しかし昭和51年(1976)2月13日に公正取引委員会によって、協会事務所および会員会社、数社は洋書および外国雑誌の販売価格協定の疑いで強制捜査を受けた。そして、協会は8月3日に出された勧告書をやむを得ず受諾し、新聞へ公告を載せるなどの対応をとった。

為替は上述のように、昭和46年(1971)8月に1ドル=308円の固定相場になり、更に昭和48年(1973)2月14日から変動相場制になったのである。

変動相場制になってから、円高が進み1994年には、一時1ドルが100円を割ることもあった。円高の進行により、各業者はそれぞれカタログ価格を下げた。しかし出版社に支払う外貨は少なくなっても、諸経費は円払いであり、ある程度のマークアップをせざるを得なかった。係数的に見れば、1ドル360円時代のマークアップ90円は1.25であるが、100円時代ではマークアップを50円に下げても、1.50となり、換算率が高すぎる、円高差益を還元せよとの意見や批判が、新聞などマスコミに取り上げられ、図書館関係の雑誌にも多くの論文が掲載された。

またこの頃、換算率の問題のほかに外国雑誌の内外価格差の問題も浮上した。内外価格差というのは、発行国での価格(CP)と日本への価格(CP)の違いである。誌代が同じで郵送料の実費程度が加算されているのは問題ないが、国外価格として送料以上の額が誌代に上乗せされている場合や、日本向けには特に高く価格を設定している場合である。このような出版社について、適正な価格に直すようにとの改善要求である。この問題については、業者側も出版社と厳しい交渉をし、殆ど改善され解決した。

変動相場制になってから、洋書の店頭価格や外国雑誌のカタログ価格とは別に、大学への納入価格は、大学側と業者が交渉を行っていた。当初は国立大学図書館関東ブロック協議会(通称:関ブロ)との間でカタログ価格からの割引率を設定していたが昭和54年(1979)からは、為替レートに一定の係数を掛けて、納入価を決める係数方式になった。その後、東大、東工大、関ブロが三者協を結成し、取引業者と価格交渉を行い、更にそれが国立六大学協議会(六大協)に変わり価格交渉を行うようになった。この価格交渉によって決まった納入価は、協議会に参加の大学のみならず、ほぼ全国の国公立大学に知れ渡り同じ納入価が適用されていた。この六大

協との交渉は1993年度の納入交渉が最後になり、その後は各大学との個別交渉、あるいは入札による受注となった。また、この頃より、外国雑誌のカタログを作成しなくなった業者も現れ、さらに価格を従来のマークアップ方式から、手数料方式または独自の計算方式により決める業者も現れた。

しかしながら、1995年3月9日、洋書輸入協会事務局および洋書輸入業者十数社は、大学などへの納入価についてヤミカルテルを結んでいたとして、公正取引委員会により独占禁止法違反の疑いで立ち入り検査を受けた。また、3月末に公正取引委員会は、東大など国立大学約10校に対し、このヤミカルテルに発注者の大学側が関与していた疑いがあるとして調査を実施した。1996年4月26日、公正取引委員会は、大学への洋書価格交渉について情報を交換し話し合いでマージンを決定したとして、洋書輸入業者七社に独占禁止法違反で排除勧告をだし、同時に大学側に対してもヤミカルテルを誘発する恐れがある交渉方法を見直すよう要請した。

このような経緯を経て、殆どの大学および大口の購買者は、入札(見積り競争)により注文を決めるようになった為、多くの業者が入札に参加するようになった。業者のなかには、シェアを拡大するために、過大な値引きで応れするものも現れた。市場(マーケット)の拡大ではなく、限られた市場の中のシェアの拡大目的である。こうした過当競争のため採算がとれず外国雑誌販売から撤退する業者も現れた。現在では外国雑誌の価格問題についての批判は殆どなく、価格問題はほぼ終息したようである。

外資と消費税

日本の大学や民間企業、または個人が外国雑誌や書籍を購入する場合、日本の書店、取次業者を経由して購入するのが一般的であるが、一部の顧客は外国のAgent または出版社に直接注文するケースもあった。1970年代後半になると、外国のAgent(外資)が日本に事務所を置き、大学や大口顧客に直接セールスを行うようになった。外資のセールスポイントは、前述の内外価格差を逆手にとって、国内価格で入手できるのて安く購入できる、価格設定がいわゆる手数料方式なので明瞭であるなどの点であった。しかし日本の業者が行っているような、定期訪問による情報の提供、クレーム処理というサービスの点では満足できないので、外資に切り替える顧客は多くはなかった。日本の業者のマーケットシェアが依然として高いのは、これらのサービスによるもので、この点がアジアや欧米諸国と異なる点であろう。

外資と日本の業者の対立が顕著になったのは、消費税の問題であった。わが国の消費税は、平成1年(1989)4月1日から施行された。税率は3%であり、平成9年(1997)4月1日からは5%(地方消費税を含む)になった。

外資の日本事務所は、日本の顧客からの注文を本国に送り請求書を発行させ、顧客から代金の支払いを受け、それを本国に送るという代行業務を行っているに過ぎないとして、顧客には雑誌の購読料のみ請求し、消費税を請求しないのである。日本の業者は消費税を支払わなければならない為、当然そこに開きが出てしまう。協会としてはこの問題を大蔵省、会計検査院、公正取引委員会に善処を求めたが、解決を見ることが出来ず、日本の業者は値引き幅を大きくして、対処せざるを得なかった。

近 刊

PDR 2008年版

米国の全病院施設・全薬局に常備される
最もスタンダードな処方薬集 [年刊]

2008 PHYSICIANS' DESK REFERENCE

62nd Edition

Published By Thomson Healthcare

The authoritative source of FDA-approved information on prescription drugs. Physicians have turned to PDR for the latest word on prescription drugs for over 62 years! Today, PDR is considered the standard prescription drug reference and can be found in virtually every medical facility and pharmacy in the United States. The 62nd edition contains more than 3,000 pages - our most comprehensive edition ever!

Among the new drugs featured in this edition are: Travatan Z - Januvia - Glumetza - Vectibix - Zolanza - Brovana - Fentora - Coreg CR

You will find information on more than 4,000 drugs by brand and generic name, manufacturer, and product category. Your 2008 PDR provides usage information and warnings, drug interactions, plus more than 2,000 full-size, full-color photos cross-referenced to the drug. You will also find: Phonetic spelling - Adverse Reactions - A key to controlled substances - Contraindications - Dosages - Pediatric use - Clinical pharmacology - Other FDA-required information - FDA use-in-pregnancy ratings

For absolutely accurate information, you need the 2008 PDR!

«2007:11» (Thomson Healthcare)

hard 9781563636608 ¥12,758
(¥12,150)



United Publishers Services Limited